

20年先のまちを語る

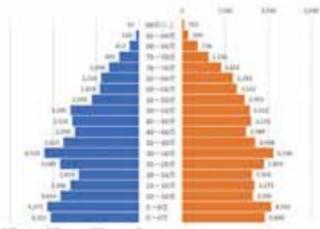
市民と議会の意見交換会

「20年先のまちを語ろう」をテーマに、10月19日、ショッピングプラザアピア4階で第11回市民と議会の意見交換会を行いました。この日は、市議会の取り組みについて報告を行った後、参加いただいた市民の皆さんと常任委員会ごとに用意したデータを見ながら、まちづくりの現状と課題などについて話し合いました。



人口構成の移り変わり

ピラミッド型



40年前 [昭和55(1980)年]

つり鐘型



20年前 [平成12(2000)年]

つり鐘型 → 壺型



現在 [令和2(2020)年]

壺型



20年後 [令和22(2040)年]

上の4枚の図を人口ピラミッドといいます。人口ピラミッドは、人口の分布を男女別、年齢別にグラフにしたものです。縦軸が年齢で横軸が人口を表します。縦軸に向かって左が男性、右が女性の人口を示します。人口ピラミッドは、将来的に国や地域の人口の構成がどのようになっていくかが分かるため、政治や経済、まちづくりの対応策を講じるのに役立てることが出来ます。

福祉教育こども常任委員会のテーブル

- 学校内だけでなく、地域全体での結びつきを強め、子どもたちが地域の中で学び、支えられる仕組みが必要。
- 学童保育以外にも、子どもたちが自由に過ごせるオープンな共有スペースや選択肢を増やす必要がある。
- 親の働き方に柔軟性を持たせ、月に数回だけ働けるようなニーズに応じた働き方が必要。
- 子どもの主体性を大切にする教育が重要で、これが学童保育や特別支援教育にも役立つ。
- 子どもたちにボーダーラインを設けることが良いかどうかについて疑問がある。

特別支援学級の児童とクラス数の推移

	児童数(全体)	クラス数(全体)	特別支援学級児童数	特別支援学級クラス数
平成18年度	7,480人	306	107	42
令和6年度	5,915人	305	473	88

学童保育所登録児童数の推移

	入所者数	クラブ数
平成26年度	996	29
令和6年度	1,652	40

産業建設常任委員会のテーブル

- 利便性や環境に配慮した公共交通を構築していく。
- 心の距離が近い買い物環境の実現を。
- 蒲生の農家は若者が引き継いでいる。これを市域に広げていく。
- スマート農業の推進。農業の担い手を増やす対策として農業が体験できる体制づくり。スマート農業を小学生や若い世代に体験してもらう。
- 一日過ごせる大型店舗の出店や高齢者のための身近なお店が必要。
- 農作物は作り手の顔が見える安心安全な購買を促進したい。
- 四季に応じた自然環境を観光施策へ(ホテル、星、紅葉、新緑の田園風景など)。

中心市街地の店舗数の推移

年	店舗数
平成12年	241
令和5年	251(16)

()内は新規出店者数

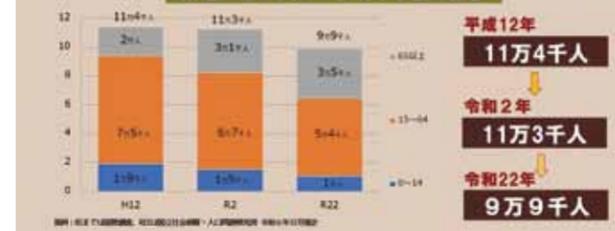
コストコの出店数

年	全国	東近江市
平成18年	4	0
令和6年	35	1

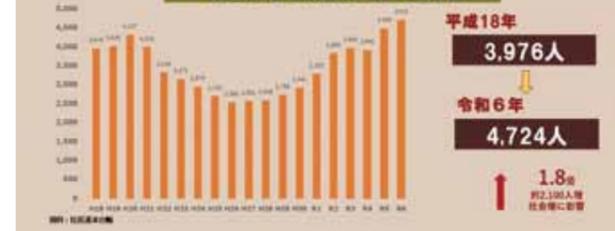
農業関連(いちご)

年	生産者数	面積	収量
平成18年	12戸	1.3ha	35.24t
令和5年	33戸	3.7ha	109.93t

東近江市の人口の状況と今後の推移



東近江市の外国人人口の状況



総務常任委員会のテーブル

- 東京などから若い人が移住してくれるのは良いが、近隣市町との取り合いは不毛。
- 壺型人口構成に移り、空き家が増えているのでは。今後もっと増える可能性大。
- 外国籍の人口が増加しているが、さまざまな宗教を学ぶ必要があるのでは。
- 外国籍の方とのコミュニケーションをとるのが難しく、防災対策などが心配。自治会に加入してもらうなど検討すべきでは。
- 少子化が問題になっているが、子どもを預けることばかりでなく、自分で子育てしながら仕事ができる環境をつくりたい。